

東日本大震災の記憶の継承について  
—17,000本の桜に託す願い—

認定NPO 桜ライン311 : shoma okamoto

Today's theme

1. My story
2. 2011.3.11
3. 桜ライン311
4. 記憶の継承について

My Story

1

Age.41

1983

陸前高田市高田町出身  
高校を卒業と同時に故郷を離れる  
大学卒業後、東京都にて建築業界に勤務  
東京にて2011.3.11を経験

震災直後から陸前高田に入り、あらゆる緊急支援を実施。  
2011年5月東京での勤務を退職。  
一般社団法人SAVE TAKATA（現：トナリノ）の現地代表として帰郷。

法人等：

代表理事/理事長 認定NPO法人 桜ライン311・NPO法人 高田暮舎

副代表理事 NPO法人 wiz

常任理事 NPO法人さくらの杜プロジェクト陸前高田

講師：

岩手大学 招聘講師（地域おこし論）

名城大学 非常勤講師（起業講座）

その他・委員など：

防災士・准認定ファンドレイザー

岩手県：東日本大震災復興祈念公園 有識者委員会 委員

：社会貢献活動支援審議会 委員

：NPO活動交流センター管理運営事業受託者選定委員会 委員

：沿岸広域振興圏大船渡地区地域連携懇談会 委員

陸前高田市：拡大人口戦略策定会議 委員

：震災復興計画推進委員会 委員

：教育振興基本計画審議会 委員

：気仙川・川原川復興かわまちづくり計画策定協議会 委員、等

Theme：

1. 災害の伝承と減災意識の喚起

2. 若年層が参加した「まちづくり」

shomaokamoto17



@redesignworks



shomaokamoto





今を「生き切る」。

明日終わるかもしれない人生。  
その瞬間の積み重ねをどう生きる？

次の世代が目指したいと思える背中

共に同じところを目指す仲間  
応援してくれる多くの人たち

東日本大震災で生まれた芽を育てる  
新しい意味

目の前の人を助きたい

×

生き残ったことへの罪悪感

NPOの可能性 × 自分の可能性

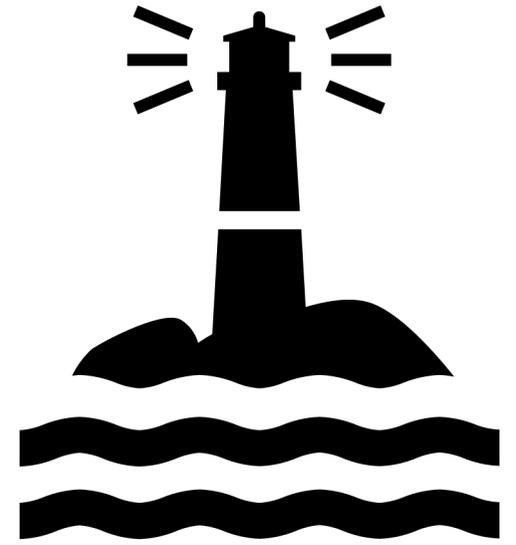
もらった縁を、恩をどう返していけるか？  
その人たちの期待に応えるということ。

地方都市特有の課題  
2040年問題

この時代に生まれた意味

## NPO経営者として 目指すもの

1. 長期的に事業継続可能なレベルのNPO
2. 職業として「ちゃんと」成り立つNPO
3. 対日本・対世界で価値を生み出せるNPO



2011.3.11

2



人口：震災前  
24,246名  
死者・行方不明者数：  
1,813名  
(震災関連死42名含)  
対人口比：7.4%

世帯数：8,069  
全損世帯数：4,047  
対世帯数：50.1%

最大津波高さ17.6m  
市内の公共設備は  
ほぼ全て壊滅  
残ったのは  
住宅地のみ



2010年（東日本大震災以前）



2011年5月（東日本大震災から2ヶ月）



2022年3月11日 (東日本大震災から11年:提供岩手県)

## 数字で見る復興の現状

17,812人

陸前高田市人口：震災減少率21.6%  
(2023.3.31 市HP)

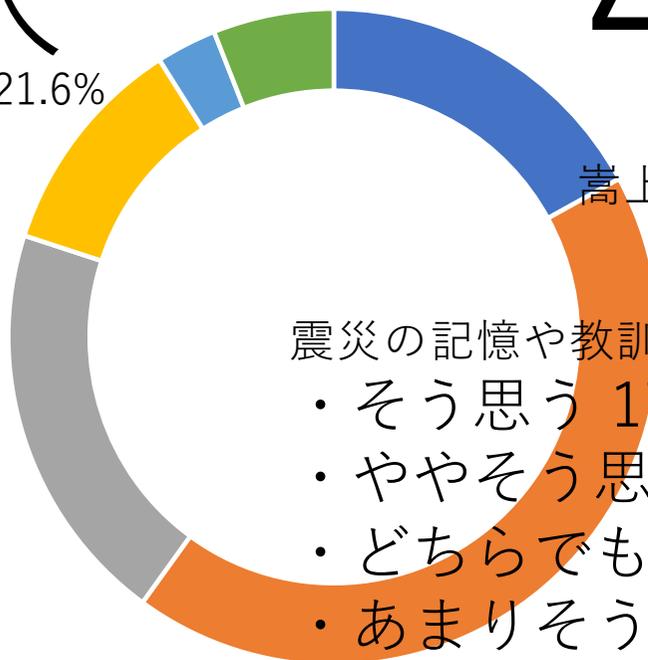
47.5%

区画整理事業の利用率  
嵩上げ地42% 防災集団移転53%  
(2023.3 NHK)

3,900億円

3,900億円

/100% 復興事業費  
執行額  
/執行率  
(2023.3 陸前高田市)



震災の記憶や教訓は風化していると思うか

- ・そう思う 17%
- ・ややそう思う 43%
- ・どちらでもない 20%
- ・あまりそう思わない 11%
- ・そう思わない 3%
- ・わからない 6%。

(2023.3 NHK 被災者アンケート)

桜ライン311

3

私たちは、  
悔しいんです。

これだけの被害は出なくて済んだのではないか？  
守れる命はあったのではないか？



1896年

- 明治三陸地震(M8.5)  
死者18,158名

1933年

- 昭和三陸地震(M8.1)  
死者1,408名

1960年

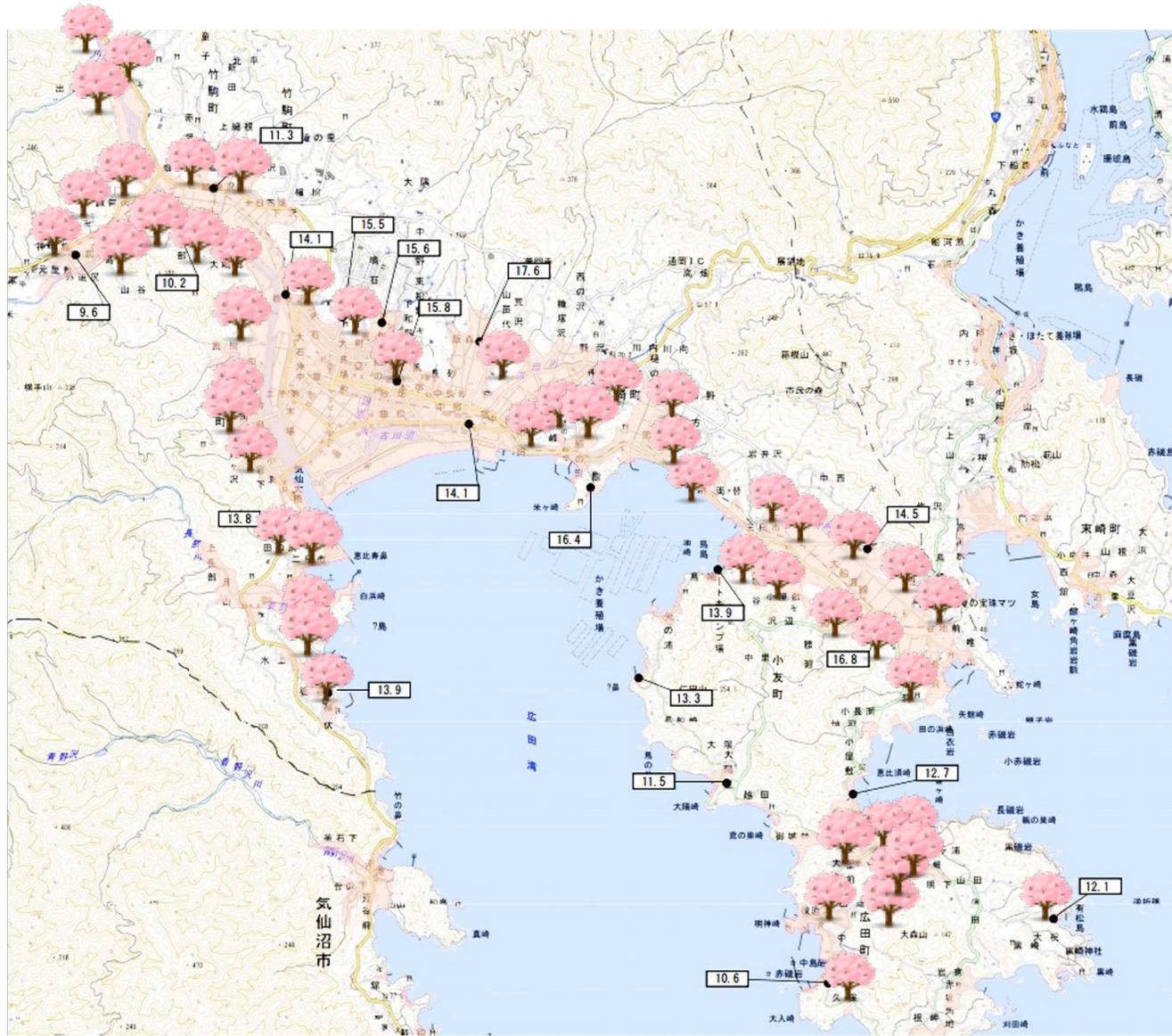
- チリ地震(M9.5)  
死者57名

2011年

- 東日本大震災(M9.0)  
死者4,672名

2011年8月の津波堆積物地質調査にて  
1,100年前にも同等の津波の襲来の報道  
(過去3,500年間で5回目となる被災)

桜 × 最大到達地点  
次の「いのち」を守るために。



# 桜を植える理由

2017年4月撮影



桜について：



桜：  
バラ科モモ亜科スモモ属 (Prunus, Cerasus)  
(バラ科サクラ亜科サクラ属)  
国内約600種  
自家不和合成のため変種が生まれやすい



野生種：100種程  
原種と自生種に大別



里桜：500種程  
いわゆる園芸種。野生種を人為的に交配/変性した品種  
ex:ソメイヨシノ  
全国の植樹されている80%は当品種。短寿命が短い、最長寿のものでも130年程。  
日本に存在するソメイヨシノは全てDNAが同一のクローンであることが2012年判明。



原種：9種  
オオヤマザクラ  
オオシマザクラ  
エドヒガン  
マメザクラほか



自生種：  
原種間の自然交配、  
変性で発生。

## 桜ライン311でメイン使用する品種

4品種を基本として、地権者からの要望と植樹地の環境要因を重ねに決定します。



### オオヤマザクラ（原種）

花色が淡紅色のためベニヤマザクラ（紅山桜）、北海道に多く生育することからエゾヤマザクラ（蝦夷山桜）とも。樹高は最大15m程度。花の色味は強めで葉は紅葉する。耐寒性もあり傾斜地にも向くため扱いやすい。現在の主軸種。



### エドヒガンザクラ（原種）

葉が展開するより先に大量の小輪の花が咲くため見栄えが華やか。ソメイヨシノの片親としても有名。樹高は最大30m程度。花の色味は淡紅色でまれに白色で、葉は紅葉する。長寿かつ巨樹になるものがあるのも特徴。



### ベニシダレザクラ（自生種）

エドヒガン（原種）の変種で、枝が下垂するもの。その中でも花色が特に濃いものを指す。樹高は最大で25m程度。花色味が濃く葉は紅葉する。生育が旺盛。地権者さんに大人気の品種だが、枝が柔らかく上に伸ばすのが大変。値段が高い。



### シキザクラ（里桜）

マメザクラ（原種）×エドヒガン（原種）の種間雑種とされる。春と秋の年二回小輪の花が咲かせる。樹高は最大でも5から7m程度。上部に制約がある場所で扱いやすい。豊田市立小原中学校から特別提供。

## 植樹に関わる3ステップ



### 植樹地の確保

- 通年実施
- 所有者の調査
- PJTへの理解と共感
- 植樹後の管理体制
- 事前の整地

# 1



### 植樹

- 11月から12月と3月から4月
- 4-5年生で1本あたり概ね18,000円
- 全国からの参加

# 2



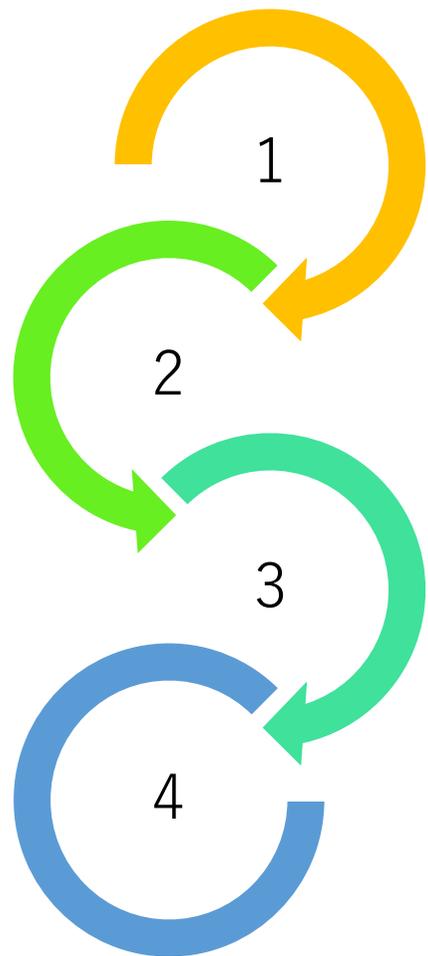
### 育成管理

- 春から秋にかけて実施
- 植えた苗木全てのチェック
- 施肥・病虫害の対応
- 刈払い作業
- 剪定（秋冬実施）

# 3



1. 植樹箇所：市内431カ所（＝地権者数）  
植樹本数：2,252本
2. 植樹・管理参加者：通算8,671名  
（市外参加者/市内外の小中高との実施）  
※2024年3月末日時点



# 20年

植樹に必要な期間：物理的条件と心理的条件

1. 復興関連工事及び区画整理事業の工事完了を待って植樹するエリアがある。
2. 地域住民の伝承に対する意識の醸成が必要。

植樹事業における参加予定人数：

1. 植樹に使用する苗木（3m～3.5m）
2. 植樹3人で1本
3. 目標17,000本 × 3人 = 51,000人

# 51,000人

# 9億円

植樹期間に必要な費用試算：

1. 苗木 1本：18,000円 × 17,000本 = 3億600万円
2. 人件費 300万円 × 8人 × 20 = 4億8,000万円
3. 他事業費 交通費/育成資材 1億円程度

## Vision (ビジョン) : 目指す未来

自然災害で人命が失われる悲しみを2度と繰り返さない未来。

## Mission (ミッション) : 使命

被災経験のない人の「他人事」(ひとごと)を「自分事」に変える

## Value (バリュー) : 提供する価値

- ・ 津波到達点に桜を植えることで減災を学ぶ場を提供する
  - ・ 震災の教訓を全国に伝えることで減災を学ぶ場を提供する
    - ・ 減災のまちづくりを通して人をつなぐ場を提供する
- ※減災：災害時において発生する被害を最小化するための取り組み

## Credo（クレド）：私たちの信条・行動規範

- ・ 鎮魂の思いを忘れることなく、桜を育て、人を育てます
- ・ 共感してくれる全ての人のチカラを結集し、地域と共に歩みます
  - ・ 支援に込められた思いに応え続けます
  - ・ 成果を求め、挑戦し続けます
- ・ 誰もが参加できるオープンな組織であり続けます

記憶の継承について

4

# 1. 防災/減災のための伝承活動

→原則的に被災者/未災者にとって心理的なハードルが高い。

被災者：震災のことを思い出したくない人も多い。

未災者：当時に体験していないのに興味があるだけで参加していいのか？と自身をおこがましいと感じ遠慮する人も多い。

# 2. 全体の議論としてはその必要性は多くの人が「必要」と感じている。

# 3. 主体的に参加してもらえるには「何」が必要か。

被災者：何よりも情動的な整理。

未災者：入口のハードルをとにかく下げる。



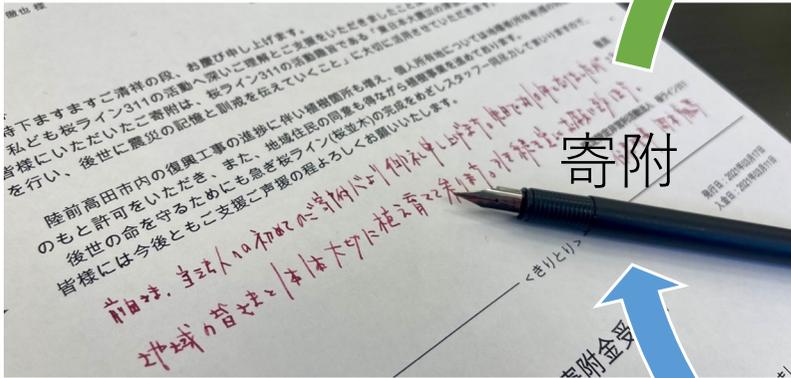
講演会



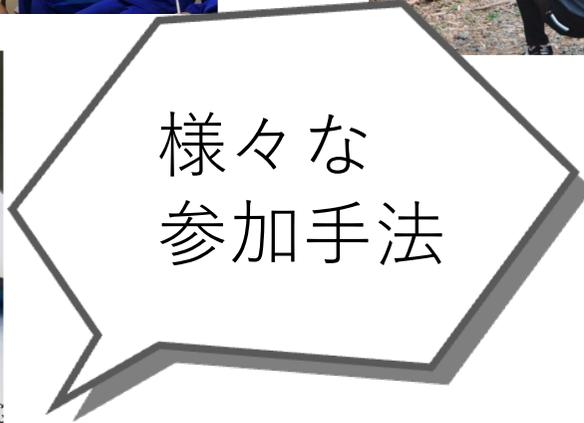
植樹会  
参加



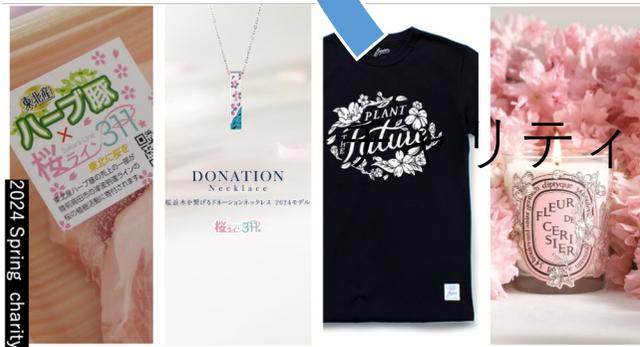
管理  
ボラ



寄附



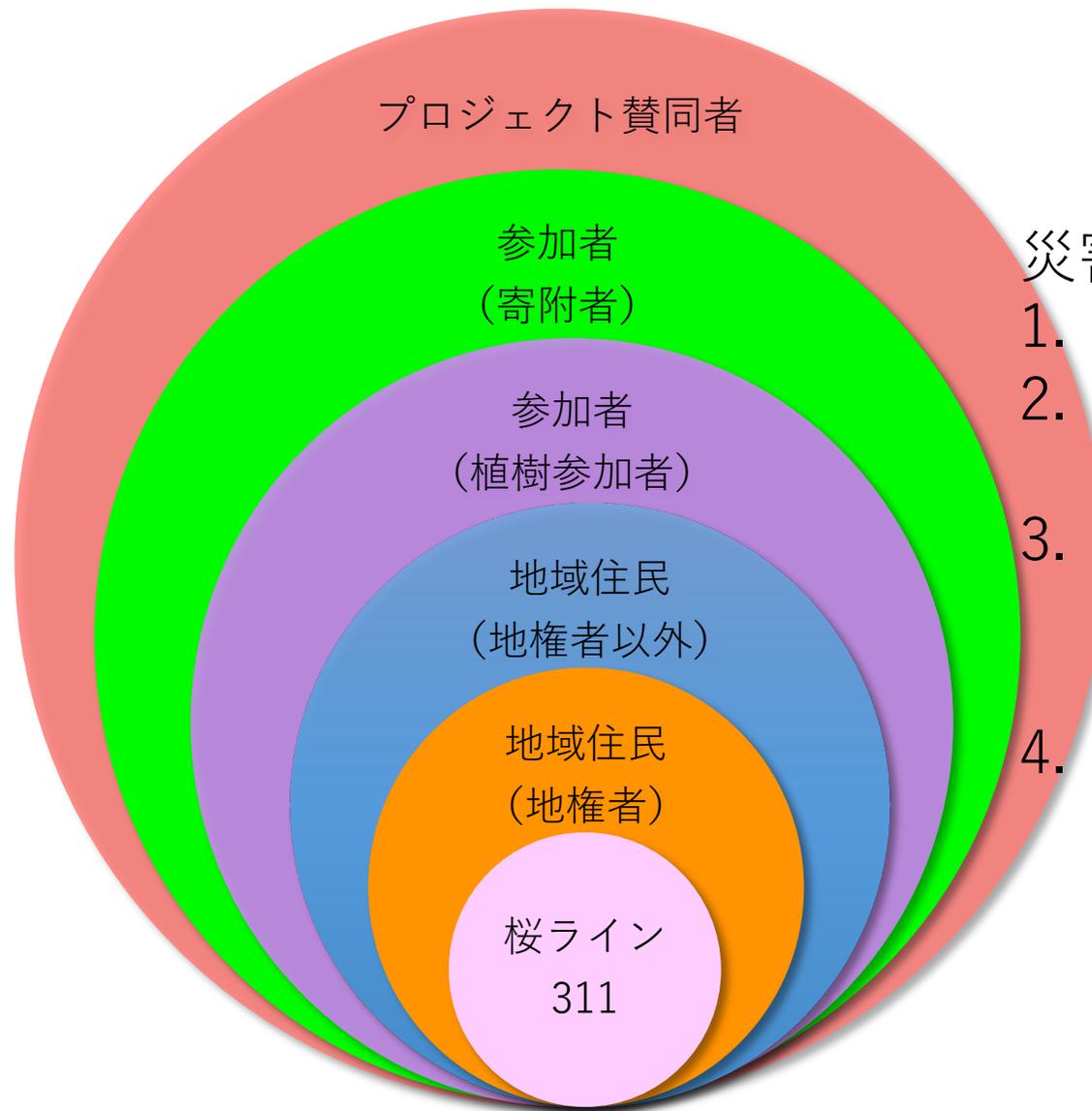
様々な  
参加手法



リテイ



草木染



### 災害の教訓の伝承：

1. 地域に根ざした活動であること
2. 地域以外のあらゆる人が  
関われること
3. その両者が  
「ずっと残していきたい」  
そう思えること
4. 全体としてポジティブなトーン

# 桜ライン311の 戦略的推し

1. ストーリー＋アイデアの質的良さ
2. 目指すゴールの分かりやすさ
3. 植樹による体験性
4. 事業自体の未来性
5. 体験成果がカタチに残る
6. オープン（フレンドリーさ）な組織体
7. 明確な情報開示とアカウンタビリティ
8. 多くの個人・企業の参加の実績

+ α